



大師堂北側の道路
(昭和53年1月) (杉田幸夫さん提供)

道はまだ舗装されておらず、右側には桑畑が広がっています。すでに毛呂山町では都市開発が進められていましたが、このころは、まだ桑畑も多く残っており、のどかな農村風景を見ることができました。

現在の風景



募集中

昭和50年代ごろまでの昔の写真を募集しています。提供いただける方は、役場秘書広報課広報聴係 ☎(295)2112 内線332までご連絡ください。

徒然歳時記

ヘチマ

ヘチマの本来の名前は「いとうり(糸瓜)」です。これが後に「とうり」となまり、「と」は「いろは歌」の「いろはにほへとちり…」の「へ」と「ち」の間に位置することから、やがて「ヘチマ(へち間)」と呼ばれるようになりました。

糸瓜という名がついたのは、ヘチマの果実から繊維が得られるためです。夏に収穫する若いヘチマはやわらかく食用になりますが、これが大きく茶色く熟成するころ、強い繊維が発達します。秋の終わりに収穫したヘチマを水に浸けて十分に腐らせ実をほぐすと、繊維質だけが残り、たわしなどに利用できます。

ヘチマは、江戸時代初期に中国から渡来し、化学繊維のない時代、庶民の暮らしの必需品になりました。実の繊維だけでなく茎を切って集めたヘチマ水は、美人水と呼ばれ、化粧水として今でも人気があります。また、咳止めや痰きりの薬としても、重宝されていました。

土と水と太陽で育ち、様ざまなものに利用され、使った後は土に戻る天然素材、へちま。環境に優しいと見直され、最近では再びヘチマたわしなどを見かけるようになりました。以前は、このヘチマたわしで体を洗っていたという人も多いはず。先人を見習い、自然を生かした暮らしを楽しむのも素敵なことです。



写真提供
小室真さん(川角)

わがやのアイドル



鈴木 ほのか 帆夏ちゃん
(3歳)

お歌とお話と踊ることが好きな子です。とても元気よく、お兄ちゃんとも仲良しのほのちゃん。すてきな女の子になってね。



今月の特集は「蚕」。記事を作成しているI係長が、蚕の写真を出しては「かわいいだろ〜、かわいいだろ〜」と迫るので、最初は逃げ回っていた私も、このごろは、白いイモムシがかわいく見えてきました。貴重なわが町の文化を知ることができる今月の広報。かわいい蚕の写真とともに、ぜひお楽しみください。(M)

■秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。
■・問 役場秘書広報課 ☎(295)2112 内線332

広報もろやま 11月20日号 No.831 〒350-0493 埼玉県入間郡毛呂山町中央2丁目1番地
■発行 毛呂山町 ■1部当り 46.4円 TEL 049(295)2112 Fax 049(295)0771
■編集 秘書広報課広報聴係 URL http://www.town.moroyama.saitama.jp

人口 36,878人(−18人)
【男 18,419人(−11人) 女 18,459人(−7人)】
世帯 15,686戸(−10戸)
※平成21年11月1日現在(カッコ)内は前月比

口広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。